

○平常時の活動報告

※「GAIA paradigm 技術士東北」より作成

震災発生年	2011年 (平成23年)	<p>○2011年5月17日研究会「技術者論理シンポジウム」(倫理研究会)</p> <p>○2011年7月7日研修会「放射能物質の環境と健康への影響他」(福島県技術士会)</p> <p>○2011年7月9日視察会「現地視察会(野田村前浜、久慈市麦生)」(岩手県技術士会、森林水産部会)</p> <p>○2011年7月16日現場視察会「山元町・仙台空港、多賀城市、仙台市折立地区」(山形県技術士会)</p> <p>○2011年7月19日緊急公開シンポジウム「大災害からの復興とケア米国と日本との比較から考える」(衛生工学・環境・上下水道部会)</p> <p>○2011年7月19日研修会「東日本大震災被害及び復旧状況と新たな災害対策」(技術情報部会)</p> <p>○2011年9月6日研修会「東日本大震災の被災・復旧状況とBCP、東日本大震災における東北新幹線の被害と復旧状況、並びにJR東日本の大規模地震への対応」(建設部会)</p> <p>○2011年9月26日講習会「東日本大震災による青森県の津波被害他」(青森県技術士会)</p> <p>○2011年9月28日研修会「東日本大震災の被災地への復興支援に向けての新技术」(電気電子部会)</p> <p>○2011年10月6日現地見学会「相野釜排水機場、旧亘理・山元地区、白河矢吹地区」(農業部会)</p> <p>○2011年10月26日視察会「宮城県南三陸町、北上川左岸・右岸、石巻市雄勝町、女川町、石巻市」(建設部会)</p> <p>○2011年11月15日報告会「第2回東日本大震災復興支援報告会」(防災支援委員会)</p> <p>○2011年11月22日講習会「東日本大震災を考える」(岩手県技術士会)</p> <p>○2011年11月28日見学会「東日本大震災により被災した上下水道施設の視察会」(衛生工学・環境・上下水道部会)</p>
一年目	2012年 (平成24年)	<p>○2012年3月20日視察会「近畿本部環境研究会の東日本大震災被災地視察(石巻市・女川町)」(防災研究会)</p> <p>○2012年3月23日講演会「東日本大震災後、避難所の居住性や心のケアでどんな課題があったか?」(衛生工学・環境・上下水道部会)</p> <p>○2012年4月18日復興支援「南三陸町歌津地区復興支援プロジェクト」(衛生工学・環境・上下水道部会)</p> <p>①2012年7月震災復興シンポジウム「復興に向けて技術士の果たすべき役割と課題」(東北本部主催)東北工大今西肇教授の基調講演と、6人の技術士による各部門の復興事業取組み報告</p> <p>②2012年6月「災害廃棄物処理業務の現状」(東北本部、宮城県支部共催)青山和史氏(技術士:衛生工学)(石巻ブロッック災害廃棄物処理業務JV事務所次長)の講演</p> <p>③2012年7月3日世界防災閣僚会議in Sendai(国際会議)のサイドイベントに参加。さらに、各県支部や部会でも防災、復興をテーマにした講演会、シンポジウムを開催した。</p> <p>○2012年8月29日見学会「農業用施設等の被害・復旧状況について(名取市閑上他)」(農業部会)</p> <p>④2012年10月5日地域産官と技術士のセミナー(山形):地域防災と技術者の役割</p> <p>○2012年11月28日現場見学会「南相馬市小高区~新地町」(福島県支部)</p> <p>⑤2012年12月10日「災害廃棄物(ガレキ)処理の現状をテーマとしたシンポジウム」(東北本部主催)東北大久田真教授(ガレキ処理コンソーシアム代表)の基調講演及び5人の講師による報告とパネルディスカッション</p> <p>○2012年12月13日研修会「東日本大震災による河川構造物の被害と復旧状況」(宮城県支部)</p>

福島県富岡町・復興ビジョン策定委員会の支援（2011年8/26から7回実施）

◆富岡町復興ビジョン策定委員会

- ・作業部会で放射線・除染の基礎知識に関して助言
→原子力・放射線部会、防災支援委員会、弁護士会、立地センター等の専門家
連携で支援（放射線・除染に関する基礎知識のレベル統一で作業部会を推進）

◆警戒区域の被災状況・線量の調査

- ・町職員・専門家等で計画区域内を現地調査
→警戒区域内の被災状況・線量を現地で把握



復興ビジョン策定委員会支援



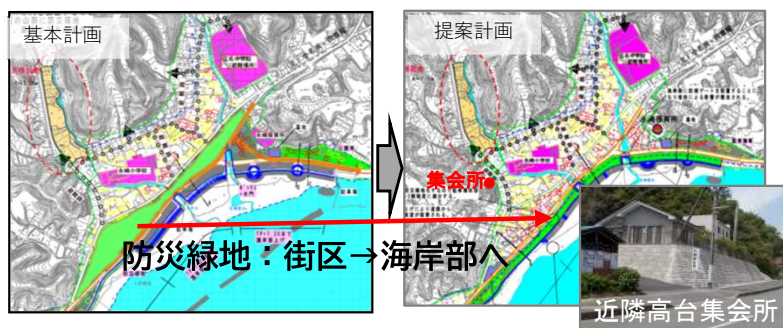
作業部会のワークショップ支援



警戒区域の被災状況・線量調査

技術士会が支援し地区住民復興協議会の意見を集約：いわき市

- ・ 地区住民・いわき市担当職員等で復興計画案の課題を抽出
- ・ 計画案の主な変更点：防災緑地位置変更、避難所を街区近場高台へ、広域避難所への階段追加 等



ワークショップの進め方説明



各班での議論風景



地区住民代表による発表

災害廃棄物の分別収集の重要性：衛生工学部会

災害廃棄物の現地調査・津波被災水田の土壌分析

2011年6月：いわき市・名取市・東松島市

2011年8月：東松島市



名取市で市長との面談



津波危害水田の成分分析土壌採取：
東松島市



名取市閑上地区のがれき集積場での再分別

被災地のなりわい再生の起業家支援セミナー支援：経営工学部会

2011年8月～
三陸5市町訪問
2012年12月～
地元起業希望者の高度モノづくり人材育成講座開設

2015年3月8日
大船渡なりわい未来塾のセミナー状況



個別テーマの取りまとめ講座



個別テーマの発表

地域再生には、地域住民によるなりわい再生での地域活性が重要

ふくしま避難者交流会・相談会：支援機構連携での相談会支援 士業連携で被災者の交流会・相談会を支援



2011/3/30
東京ビッグサイトでの相談会



2013/1/17
技術士による放射線の基礎知識、健康被害等を説明



2012/1/20
八王子交流センター：交流会で出身町の様子や復興計画案等を説明



2012/3/25
会場からの疑問・質問に回答



2012/12/24
放射線・健康被害の相談

高台移転団地計画の住民説明会ツール作成支援：CIM-3D



計画平面図で地区住民へ宅地計画・施設配置等の説明



CIM-3D図による宅地間段差等の説明

新たなブランド化への取組み：北限のオリーブ定植活動

- ・ 地域特性を活かした新たな地域ブランド化の取組み：日照時間が長い、降雪量が少ない
- ・ 取組み：H26年度から試験定植：現在4地区、1.5ha、515本定植→5ha、1,500本定植を目標

石巻市北限オリーブ研究会設立：2017.1.31

東京五輪にオリーブ冠を

石巻 北限産地化へ研究会発足

東日本大震災で被災した石巻市をオリーブの北限産地にしようと、市や生産団体などが30日、市北限オリーブ研究会を発足させた。2020年東京五輪・パラリンピックでオリーブの冠をメダリストに贈る構想もあり、国内最大の産地の香川県小豆島町などと連携して実現に向け動き掛ける。

研究会は復興庁や県、石巻専修大など26組織で構成する。市の阪井聡市長と奥田三善農協会長を務め、栽培技術や加工技術の向上を図り、特産品として復興の資源にも活用する。

市内のいしのまき農協農業情報センターであった設立総会には、関係者約40人が出席。会則や役員を決めた後、オリーブの冠作りにも取り組み、小豆島の農業生産法人アライオリーブの荒井信雅代表(左)が枝葉を針金で縛って作る方法を指導した。

オリーブ冠は古代五輪で勝者に贈られたとされ、04年アテネ大会でも採用された。

栽培技術高め特産品に

町でオリーブの栽培例があるが、一般に不適とされてきた。石巻は日照時間が年2050時間(05〜14年の平均)と長く、降水量は年1094㎜(同)と少なめで、栽培に適している。

研究会副会長に就任した1般社団法人雄勝花物語の徳水博志共同代表(63)は、事業として成り立つよう「研究し、被災地復興のシンボルとして東京五輪で世界に発信したい」と語る。

「石巻市北限オリーブ研究会」設立総会
オリーブの枝葉で作った冠をかぶり、記念撮影する研究会のメンバー

北上地区 「北限の産地」目指し苗木250本

オリーブの特産品化を目指している石巻市北限オリーブ研究会のオリーブ定植作業技術指導会が4月13日に北上地区で開かれました。

会員ら約70人が、40アールの畑に3～5年育てた2品種の苗木250本を定植しました。



北上地区
オリーブ定植作業で技術指導会

